

教科別研修講座報告

C 431 小学校図画工作科研修講座

「主体的・創造的な学びを促す表現や鑑賞指導のあり方」

【平成 30 年 7 月 26 日（木）実践編】

講師 福井県観光営業部文化振興課主任

牧井 正人 氏

〈内容の詳細〉

1 図画工作における表現と鑑賞の活動（講義）

- ・出前授業の経緯および対話による鑑賞の概念と基礎
- ・屏風「落葉」出前授業を体験、発言の促し方、子どもの意見尊重の姿勢を体感

2 表現や鑑賞の一体的な取り扱いについて（演習・実技）

- ・子どもの気持ちになって「ミニ屏風」を制作し、グループで鑑賞
- ・アートカードを用いた対話による鑑賞に挑戦、グループで実践



〈受講者の声〉

- ・鑑賞において、ものの見方や考え方が一通りではなく、違っていいということが心に残りました。その一つ一つの意見を認め合う時間を図工の鑑賞をはじめ、様々なところに生かしていきたいと思いました。
- ・久々に色鉛筆やクレヨンで絵を描いたので、あらためて指導者側も、絵画や制作に触れないといけないと感じました。

・子どもの発達段階に応じたためあての設定、子どもの学びを目に見える形で残しておき、次のヒントにつなげる方法、見取りを中心とした声かけ、造形的な見方・考え方を意識した授業づくりが大切だと思いました。

・一枚の絵で、多様な考えを引き出していて、おもしろかったです。鑑賞から技法を引き出し、それを授業のねらいに持って行くなど自分の授業でも使えそうだと感じました。



【平成 30 年 8 月 27 日（月） 基礎編】

講師 教育総合研究所 教職研修センター 所員 伊藤裕貴 和多田訓子

〈内容の詳細〉

1 図画工作科の目標、学びのねらい（講義）

- ・図画工作の授業づくりや評価について、現在までの図工科授業実践における課題を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三本の柱と造形的な見方・考え方を基本に据えて理解
- ・指導ユニットを活用した授業改善について、造形教育研究会サイトよりダウンロードして持参したユニット資料をグループで交換し、主体的・対話的で深い学びにつなげるための工夫点について協議

2 子どもの絵の表現について（演習・実技）

- ・発達段階と発想・構想の能力および創造的な技能の関係、子どもの絵と大人の絵の違いを理解
- ・さまざまな道具を使った絵具（墨）の実験を行い、感性を働かせて四つ切の和紙に表現

3 造形遊びや工作、立体の表現について（演習・実習）

- ・造形遊びの基本的考え方について聴講し、粘土を使った指導について演習
- ・素材としての土粘土のよさを味わいながらレリーフを造形し、ガラスをまぶして色のある作品として表現



〈受講者の声〉

- ・子どもの発達段階に応じたためあての設定が大切であることを学びました。子どもの学びを目に見える形で残しておき、次のヒントにつなげる方法、見取りを中心とした声かけなどに留意し、造形的な見方・考え方を意識した授業づくりを行っていきたいです。
- ・子どもが簡単に扱える道具ばかりで墨絵が描けることが実感できたので、実際に子どもに使わせてみたいです。
- ・土粘土の感触や造形のやりやすさを子どもに味わわせたいと思いました。
- ・指導ユニットは、展開が分かりやすく、クラスの実態に応じて応用が利くので、とても使いやすいということを知りました。活用の仕方をぜひ職場に知らせたいです。

